

高校生 ICT Conference 2014

～考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方～

高校生 ICT Conference 2014 サミット 熟議録

2014年11月3日（月祝）

【会場】東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行）

主催・共催

一般社団法人モバイルコンテンツ審査・運用監視機構

安心ネットづくり促進協議会

大阪私学教育情報化研究会

2014年11月3日

第1版

目 次

1. 高校生 ICT Conference 2014 サミット 熟議グループ概要 1
2. 熟議録..... 2

1. 高校生 ICT Conference 2014 サミット 熟議グループ概要

熟議テーマ：	「考えよう！これからのスマートなネットの使い方・あり方」
日 時：	2014年11月3日（月祝）13:30-17:15
場 所：	東京ユビキタス協創広場 CANVAS（内田洋行）
熟議グループ：	<p>熟議参加者が高校生のため匿名とさせていただきます。（敬称略）</p> <p>6人</p> <p>大分県立別府青山高等学校 3年 男子</p> <p>羽衣学園高等学校 3年 女子</p> <p>北海道札幌月寒高等学校 2年 女子</p> <p>沖縄県立南風原高等学校 2年 男子</p> <p>奈良県立王寺工業高等学校 3年 男子</p> <p>水戸葵陵高等学校 2年 男子</p> <p>〔ファシリテーター〕</p> <p>羽衣学園高等学校 教諭 米田 謙三</p> <p>〔書記〕</p> <p>大阪電気通信大学 當山 達也</p>

2. 熟議録

F『みんなが、小中学生に伝えたい、学んでもらいたいなど思っている情報モラル、ネットの使い方を青い付箋にひとつずつ書いていってください』

F『書き切った感じ？まずは模造紙に貼って行って、それから似た意見をまとめていってください。例えば、「個人情報」とか、「思いやる気持ち」とかって感じで』

F『ノーベルって何？』

S「例え話として、ノーベルさんがダイナマイトを作ったときに怖い面を活用されたことがある。これに今のインターネットは似てるなと思った」

F『どこか気になるポイントを一人ずつ喋って行って欲しい。まずは知識の所』

S「ネットの知識、怖さを知るって書いたけど、親も知らない人が多い。今はスマホが主流で、買い与えたら子供は勝手にするよね。ってなって知識を誰も教えてない。全く知らない状態で使うことが多いから、知識を与えないと思った」

F『誰かこの意見に補足があれば』

S「今は主流がスマホで、小中学生も使ってる。分かれば良いけど、子供にとっては遊びの道具になってしまっていて、親が分からないことを子供が分かるわけではないと思う。知識をつけていくべきだと思った」

S「教育の部分だけど、SNSに登録すると、小学生だろうが大人だろうが、全員が同じ立場になって使うことになる。大人と同じ立場になるからマナーとか知識が必要だよって教えないといけないと思う」

F『ネットは誰のもの？』

S「自分だけのものじゃないから、自分の意見だけをわーわーって言うのと、それは自分だけのものになるんじゃないかなって思う」

S「こっちの相手の事を考えるになると繋がるかもしれないね」

S「みんな画面上で話していると、普段の人と（対面で）話してるのと違って、表情が見えないし相手の情報がない。だから、自分は大丈夫でも相手を傷つける可能性とか、喧嘩になる可能性がある。顔が見えないから、もっともっと気をつけていかないといけない。顔文字とかスタンプがあると嬉しいけど、そうじゃないと不安に

なる。結局は人と人がスマホを使ってるから、リアルな会話でのコミュニケーション能力を画面上で使うことが出来ると思う」

F『SNS系で、失敗したなーって思う事があった人は？』

S「Lineを始めたばっかだからない」

F『なんで今までLineを使ってなかったの？』

S「今までスマホじゃなかった。ガラケーのLineはすごく不便だった」

F『なにが不便？』

S「更新って押さないといけない。更新が終わった頃には話題が終わってる」

F『そこで買い換えなかった？』

S「うん。そこで最近Lineを使い始めた」

F『何か思うところある？』

S「メールと違って重みが違う。メールならちゃんと文面を考えると、Lineはぼんぼん送れる。小中学生だと考えずに送ってしまうから、ほんとに失敗しやすいと思う」

F『そのほか、言える範囲で失敗例があれば』

S「自分がよく思っていないアーティストがいて、悪口じゃないけどそんな感じのことをツイートした。そのときに、友達にそのアーティストのファンがいて喧嘩になったことがある」

F『どんなこと書いたか覚えてる？』

S「好きなアーティストの話をして、もう片方のアーティストは、方向性ずれてるよね。っていうことを書いた。ジャンルが似てたから引き合いに出したのだけど、批判を受けた。絵文字とかも使わなかったから、冷たく感じてしまったのかもしれない」

S「アプリ連携で、ツイッターが乗っ取られたことがある」

F『ほかの失敗例は？』

S「Youtubeのコメント欄で、似たような人を紹介したら、別の投稿者のところで別の話題を出すなと怒られた。共感して欲しかったんだけど反感をかってしまった」

F『どんな文面だった？』

S「動画も好きだけど、この人も似てる感じで面白いよって書いたと思う。その結果、お前の趣味なんかしらねーよっていう感じだった。直感的に投稿するから余計にきつく感じる」

S「同じ名前の人がいて、サムネイルをほぼ一緒にされたことがある。そのときに親しくない友達に親しい友達と間違えて、仲良く

話しかけて気まずい思いをしたことがある」

S「似たような話で、塾の講師の先生と同級生の名前が同じで、砕けた文面を送って気まずかった」

S「思いやりに繋がるけど、タイムラインの写真に友達と写ってる写真を載せて怒られた。写真をネットに載せていいのかを確認するべきだったなと思った」

F『この辺かな？それじゃあ他の項目も見えていこうと思う』

S「一日何時間とか、課金はどうするとかのルールを親と子供で話して、お互い認め合った上で使うべきだと思う」

F『みんなに質問。親とルールを決めてる人はいる？』

→3人

S「課金だけはするなって言われてる。お金のことだから。ネットの時間は決められてないけど、課金はどんどんはまっていくと思う。周りは課金している人が多い」

S「自分も同じ。それとご飯の時にスマホを使うな。ご飯を味わえて言われてる」

F『ルールは決めといたほうがいいかな？』

S「その方がいいと思う。小さいときからやっていると習慣になっていいと思う」

S「有料アプリはダウンロードするな。もしダウンロードしたいときは、土下座しに来いって言われてる。まだ土下座したことはないけど」

F『土下座までしてダウンロードしたい有料アプリには出会ってないのね。それじゃあルールを決めてない人に質問。なんでルールを決めてないの？』

S「自制をする心があるから。ルールを決めなくても迷惑をかけないし、自分の中で注意して使っている。例えば、個人情報に関することは書かないとか、大事にならないような使い方をしている。課金すると自分のお金じゃないし、ご飯食べるときとかは使わない。とか時間を決めないと、ネットの世界にどんどんはまってってしまうと思う」

S「親がネットに詳しくなくて、話し合いにすらならない。あなたが知ってる範囲で、あなたのモラルに任せるよって言われてる」

S「親が普通にネットする。課金はお小遣いの範囲ならOKって言われてる。親が詳しくて、ネットがどんなところかを理解してるから、あまり心配されてないかな？って思う」

F『親とか先生とかにスマホのことは知って欲しい？』

S「知ってた方が良いと思う」

F『なぜ？例えばどんなこと？』

S「もし、自分が小さい子だったら、親にはネットが自分だけの物じゃなくて、いろんな所に繋がってる、見られてる事を教えて欲

しい。そうじゃないと暴走して、いろんな問題を起こすと思う」

S「いい加減、顔文字の使い方を学んで欲しい。大人と話すときはすごく気を遣う」

S「顔文字を使うと失礼になるかな、とか思うよね」

S「もっと砕けたメールとかLineを送っても許してもらえる空気になって欲しいと思う」

S「親が分からないから、もっと説明書を読んで欲しい」

S「フィルタリングってなんぞや？って事を教えて欲しい」

F『フィルタリングをやってる人は？理由はなにがあるかな？』

S「学校が規則で決まってる」

S「フィルタリングの範囲がカスタマイズできると思うけど、それを親は知らない。だから、OnとOffの極端な選択になってしまう。その辺を分かって、必要なレベルのフィルタリングをかけて欲しい」

S「親にフィルタリングは20歳まで絶対かけろって言われてる。工業系の学校に通って、工業系の内容が書いてある個人のブログとかが全く見れないのは、すごく困る。もっと細分化できるように調整できて欲しいなって思う」

S「私は高校に入って外してもらった。フィルタリングに守られるから、とりあえず見たいサイトをクリックして、だめならまた違うところを…って感じで使うことが出来た。だけど、高校に入って外されたときに、守ってくれる物がなにもないから、逆に怖くなってしまった」

F『元々フィルタリングをかけてない人は？』

S「あんたならフィルタリングをかけなくても大丈夫だろ？って言われたから」

S「小学校くらいまではフィルタリングがかかってたけど、モバゲーがやりたくて外してもらった」

F『どうやって外してもらった？』

S「ゲームがやりたいからって言った。変なことはするなよっていう条件で外してもらった」

F『フィルタリングを外したことで、何かトラブルはあった？』

S「ない。強いて言うならお小遣いがへってしまったことぐらい」

F『他にフィルタリングをかけてない人は？』

S「お母さんにその知識がない。携帯ショップで説明されても、4回くらい聞き直して結局意味を分かってなかった。自分的にはフィルタリングをかけて欲しくなかったから良かったけど」

F『なんでフィルタリングかけてほしくなかったの？』

S「一部の危ないサイトはあるから、緩いフィルタリングはかけて

もいかなかったって思ってるけど、ガチガチなのは…」

F『事業者の方もなにか聞きたいこと、コメントがあればどうぞ』

J【フィルタリングの設定は段階に分けて変えられるようになっていて、それからフィルタリングを外すときに親子で話し合って緩めるっていうのは一番良い使い方だと思っていました】

J【モバゲーやグリーで言うと、10代の課金率は、3-5%位だと思う。だから、私たちが無料でもある程度楽しめるように作っている。お金を使わないとあそべないよね、っていうのが一番怖くて、そうならないように一生懸命努力している】

J【未成年だと上限設定を設定することが出来る。自分の年齢をきちんと設定していると、お小遣いの範囲とかで運用することが出来ると思う。その辺をしっかりと親と話してもらえるといいなと思いました】

F『ここまでは、フィルタリングと個人情報の大切さに関する部分話をしてもらいました。じゃあ違うところに飛んでみようか。じゃあ学ぶ姿勢を取るっていうのは?』

S「学校ではこういうことが起きてますと、ちゃんと伝えて警鐘を鳴らしていても、結局は人ごとだよ。って思ってしまうと思う。だから、いくら啓発活動をしてても巻き込まれる人がいるのだとおもう」

S「高校生でも自分には関係のないことだから無関心っていう人は多いと思う。小中学生ならネットが怖いっていうことも知らないと思うから、小中学生も親と一緒に学ぶべきだと思う」

S「講演会みたいな形じゃなくて、実際に機械を使ってもらって、勝手にいじってもらうことでウイルスが入ったりする疑似体験が出来るようになれば良いと思う」

F『いろんな意見が出てきて、それに対する問題点だったり知って欲しいことがだいぶ出てきたと思います。そこで、みんなが高校生としての想いとして、こうやれば解決できるよねって事を出して欲しい。難しいと思うけど、必要ならいろんな人が来るので、その人達の力を借りてもいいから、やってみて欲しいと思う』

F『例えば教育に関する事で話してみよう』

S「私たちはいろんな講演とか、こういう場でスマホとかネットについて考える機会があるけど、小中学生は全くないと思う。そういった面で年齢に合わせて教科書を作って、学校の時間を使って教えることができる環境を作って欲しいと思う」

S「授業で各年齢対応の教科書を使って授業をすれば、いろんな授

業に絡めて話を進めることが出来ると思う。例えば、いろんな講座が学校の授業に取り入れられてるけど、薬物教室とかは、普通に生活してたら会う機会は少ないと思う。だけど、身近にはネットっていう存在があって、すごく身近だから、薬物の前にネットに関する事をいなければいけないと思う」

S「小中学生は、自分のクラスがあって、その中なら信頼関係とかできてスムーズに話すことが出来ると思う。現実離れしてる授業とか講義は、大人が子供にただ文面を読み上げてただだから、そうなんだ。で終わってしまうと思う。実際にソーシャルメディアの最前線で、生きて使ってるのは若者で、一番使い方が分かってると思う。その中でも常に最前線で生きてる高校生が、各中学校に行き話するのが一番良いと思う」

F『教材は漫画の方が良いのかな?』

S「文章だと頭に入らないから、漫画の方が良いと思う」

S「漫画にすることでどれだけ効果がでるか分からない。いっそのこともっと崩して、ポスター一枚とかにしてしまう方が良いのかなと思う」

F『沖縄の高校生に配ってる本はイラストとか漫画が多いよね』

S「一作目、二作目は文字しかなかった。でも、使い方の前にまず読ませないと意味がないよねっていう意見が殺到した。だから今回はイラストを入れて視覚から伝わるものを増やしてみた」

F『解説もイラスト化してるところもあるよね』

S「その方が良いって言う話もあったので、思い切ってみた」

S「ゲームとか疑似体験とかをやると、いくら疑似体験とはいえ頭が真っ白になってしまうと思う。そういう体験こそが大事だと思って、それに加えて好きなことと組み合わせて考えて、使っていくと良いと思う」

F『疑似体験のアプリとかを使ったことある?』

S「デジタルアーツさんの体験アプリを使ったことがある」

S「読み物とか視覚で得るよりも、実際に体験をするべきだと思う」

S「高校生が実際に小中学校に行き出前講座をする。そういうことが出来る高校は少ないし、ボランティアになると思うけど、広がってほしいなって思う。例えば〇×ゲームとかでやっていくと良いと思う。高校生であれ大人であれ、前で喋ってるのを聞いているだけじゃ頭に入らないと思う。漫画とかゲームとかが手元にあると、参加しながらやっていけば良いと思う。小中学生が対応のスマホアプリがあって、最初はこれで遊んでみよう。みたいなものがあれば良いと思う。あとは、フィルタリングソフトは、小中学生がつかうなら何%割引。みたいなことができていいなって思った」

F『ここまで具体的に出了ので、出来ればスライドに高校生からできる小中学生の授業もスライドに含めて作って行って欲しいと思う。いろんなキーワードが出たと思うけど、高校生が実際に小学校だったり中学校に出前授業をするよ。ってなったときに、何を教えるかがみんなの伝えたい部分だと思うから、考えて欲しいと思います』

<第一部終わり>

F『今度は2020年までにこれからのネットを安心安全に使っていくために、身につけていなければいけないって思う項目を、赤色の付箋に書いて行って欲しいと思います。別にそこまで近くなくても良いし、遠くても良いから思いつくことを書いて行ってください』

W「みんな5年前になにしてた？」

S「中三の時にスマホを持ち出した。受験終わってからガラッとスマホに変わったイメージがある」

F『書けたらみんなでグルーピングをして行ってください』

S「判断基準って何？」

S「何が安全で、何が危ないのかっていうことを共通化していくべきだと思う」

J【なにを基準にするのが一番良いかな？】

S「失敗の経験の積み重ねが基準になると思う」

S「みんなも書いてるとおりで、ネットの危険性についてはみんなが知るべきだと思う。パスワードに加えて、アプリのパスワードもつけてセキュリティを高めることが必要だと思う。

S「生徒会やって、生徒会室に人の携帯を弄る先輩が時々やってくる。その先輩が来たときにはいつも以上にセキュリティを高めて弄られないような対策を取ってる。だけど、後輩はそのことを知らなくて、Lineで勝手にメッセージを送られたって言って揉めたことがある』

S「パスワードは本当に大事だね」

S「私は光と影を見つめる力って書いた。良い面と悪い面、この二つをきちんと考えて、自分の積み重ねの判断基準に基づいて、使っていく必要があると思う。これからどんどん進化して、ロボットで介護っていう時代が来ると思う。いまでも冷蔵庫とスマホの連携をする機能があると思うけど、人間にしか出来ないことがなくなっていくって、考えるっていう事をする機会がなくなっていくって言うのではないかと思う」

F『みんなは光と影っていうけど、光ってなにがあるかな？』

S「私は、ネットが巨大な脳みたいな物だと思って、使う人によって変わる性質の物だと思う。悪意のある人が使えば陰の部分に

なるし、善意の使い方をすれば、それは光になると思う」

S「相手が自分に何をさせようとしているのかを察知する力が必要だと思う」

S「光の部分は便利さだと思う」

F『何が便利？』

S「どれだけカロリー消費したとか、海外に行ったときには今いる位置とか、どこに何があるっていう情報、地図が見れるとか」

S「すぐ調べられる。それこそ何でもかんでも即座に調べることが出来る。だけど、考えることがなくなってしまって、考える力は低下してしまうと思う。人間の知識とか考える力の後退に繋がらなければ良いと思う」

F『大人はすぐ調べられる。っていう事に否定的な意見を持つてる人が多いと思う。それから情報っていうキーワードが出てきたけど、情報って難しくない？みんな調べるっていうけど、ほんとにその情報が正しいって何をもって信じる？』

S「経験の中で、かな」

F『たとえば、地図っていう話がさっきできてきたけど、ほんとにその地図とか情報って正しい？』

S「正しくないこともあると思う」

F『そうだね。そこで高校生の基準が知りたいなって思う。例えばウィキペディアってどう思う？』

S「ウィキペディアは誰でも編集できて、個人の意見も入ってるし信用するのは難しいと思う」

F『情報はどのレベルまで調べる？』

S「検索結果の上位を見て、共通性を調べて大丈夫かな？って疑ってから使うようにしてる」

S「情報って言ったら、私は地震とか雷が怖い。地震速報とか私にとってはすごく貴重。普通のニュースは趣向品だと思って、生きるために必要じゃないものだと思う。だから、情報は生きるために必要なものだと思う」

S「光の部分に戻るけど、みんなの意見とは反対で、考えなくても情報がそろってるところだと思う」

S「光は便利な部分だと思う。あたり前っていうことが光の部分。ネットって便利だよってところ。陰の部分は、有害情報だったり怖いっていう事だと思う。危ないよ！っていう講演はよくやるけど、陰の部分しか喋ってくれない。だから光の部分がかすんでしまう。陰を知った上で光の部分を見るべきだと思う。

F『勉強するときにスマホとかネットとか使ってる？』

S「ALTの先生とメールでやりとりしてる。当然全文英語だからWeb

の翻訳サイトとか例文サイトを駆使してる」

S「一問一答のアプリとかTEDとかを見てる。そのお陰で紙媒体を使うのがきつい」

S「私は古典が好きで、和歌を書くときに、係言葉とか枕詞の使い方が分からないときに、どこにどういう風に入れたら効果が出るのか？っていう事を考えることがある。そのときに昔の和歌をすぐ調べれて便利だなんて思う」

S「私の英語の先生は、電子辞書否定派で紙辞書を使うべきと考えている先生。紙辞書で何か単語を調べたときは、その単語に線を引くほうが良いと言っていた」

T「電子辞書だとダイレクトに情報にアクセスできる。それはすごく便利だと思うんだけど、紙辞書で調べたときに、苦労してたどり着くまでのプロセスがあるから、記憶に残りやすいかなと思って、そう指導している」

S「私も同じ事を言われてて、紙辞書を引いてる」

S「たどり着くまでに時間をかけると、その時間分頭に残って良いと思う」

S「紙辞書は英語の勉強をするのに向いていると思う。だけど電子辞書にも言い面はあって、答えを見つけるまでの時間だったり、あの単語が分からないっていうときに即座に調べることが出来る。科目とか状況によって使い分けていくのが一番良いと思う」

F『プロセスを求める場合は、紙辞書を使うのがいいのかもしれないね。とはいえ、即効性があるものとないものを使い分けなきゃいけないよね。とある県の高校ではタブレットの端末を、一人一台渡しているけど、それはどう思う？』

S「微妙」

S「紙が恋しくなると思う」

S「識字力が落ちそう」

S「うまく両立できたらいいなって思う」

S「紙には紙の良さ、ネットにはネットの良さがあると思う。図形に関する部分だったら、回せたりもするし分かりやすいと思う。英語なら紙媒体の方がプロセスもあるから身につくと思う」

S「使い方を分かっている人が使わないといけないと思う」

F『そのためには？もう渡してしまってるから、分かってない高校生にどうやって説明しよう？』

S「先生がわかってないといけないと思う。先生が分かっていたら使いたいとも思うけど…」

S「週に一回工業の実習でレポートを書く機会がある。その時に、専門用語がいっぱい出てきて、実験で使った工作機械の精度を上

げるにはどうしたら良いか？っという課題が出た。専門用語だから辞書にも載ってないし、ネットを使わざるを得ないときも出てくる。そういうときには積極的に使っていくべきだと思う」

S「紙には紙の良さがあるって良いと思う。だけど、身体的な問題、例えば書かないと覚えられないとかがあって、両方を使うことでちょうど良い距離を保てると思う。それから落書きの文化がなくなってしまうと思う」

F『確かにみんな書いているもんね。デジタル教科書ではやらない？できないかな？』

S「落書きの機能があって欲しいなって思う」

F『そういう両立、どういう風に使い分けるか。失っていく物も経験しないと分からないかもしれないね』

S「思いやりの部分で。日本人は、隣の音が聞こえる空間で生活してきた。聞こえても聞こえてないよっていう思いやりがあったけど、ここ最近は隣の音に敏感になったりとか、優先席に座ってる健康な学生とか、自分が年寄りだからって行って、人を突き飛ばしてまで席に座りに行く人もいる。相手の事を考えていないのではないかって思う。相手の気持ちを考える授業だったり、誰かに手紙を書く授業をしてみると良いと思う」

F『最近手紙って書く？』

S「願書で書いたらいいかな」

S「たまに親と交換日記をしてる。小っちゃい頃からずっとやって、三行とかしか書かない日もあるけど、親との連携に繋がって今でも仲が良いと思う」

S「内定通知書もらったときにお礼の手紙を書く。相手の会社の名前を上。自分の名前を下に書く。感情を込めてるよってことを文字に表して出すことが必要だと思う」

F『知識って具体的に何が必要かな？』

S「私自身が引っかけってしまうような人だから、もっと大人になっっていくかなとな。って思う」

S「現実世界とリンクしていることを忘れないことが大事だと思う。結局使っている人は人間で、相手がどう思ってるかを忘れないようにしないといけないと思う」

F『これ聞いてどう思う？』

S「分けるんじゃないかって、その場にいたらネットだろうがリアルだろうが現実と思うことが必要だと思う。変に表と裏を作らないでっていう部分では、思いやりとかに通じるかもしれない」

S「ITを信頼すること、ネットから逃げないことが重要だと思う。これからは、より身体に密着する機械が出来てくると思う。自分

の健康状態も機械に入れることになる。それはすごく重要な個人情報で守っていかないといけないと思う。だからこそある程度は機械を信頼して預けるまでの信頼が必要だと思う。初めて会った友達を信頼するのが難しいのと一緒に、機械をいきなり信頼するのは難しいと思うけど、そこで隠れたり逃げたりしないで相手を信頼して、機械が詳しくない人も情報社会に参加しないといけないと思うし、これからは参加しないとすごく不便な世の中になっていくと思う」

F『逃げないっていう思い切った意見はどう思う？』

S「今よりも情報社会とか機械が発達して、通信速度も上がって、常にネットに繋がる時代になっていくと思う。その点も考えるとネットから逃げない。っていうことは大事だと思う」

S「これから先、自分たちにとって密接した物になっていくと思う。今でさえネットがないとどうしようもないこともある。友達との連絡もネットがないといけない。広い意味でのネットって生活から取り外すことはできないから、逃げずに目を向けて光と影を考える力を身につけるとか、マイナス面じゃなくてプラス面を考えて、言い方向に持って行けるようにすることが大切」

S「私は数学が嫌い。一回分らない！ってなると問題集も手をつけたくなくなる。それと同じようにネットが分からないから手をつけようがない。みなくていいってなる人はいると思う。数学は教育課程で縛られてて逃げることは出来ないけど、インターネットは逃げる事が出来る。インターネットもある程度説明会を受けないといけないとか決めて、インターネットから目をそらさない、逃げれない環境を作る必要があると思う。大人は管理しなきゃいけないっていう自覚を強制的に植え付けないといけないと思う」

S「包囲網を作ったほうが良いっていうのは、親がしっかりすると、自分たちもしっかりしなきゃと思う。自分たちが、スマホが始めて一緒に育ってきた。それを大人が私たちはしらないって放置するのはやめてほしい。一緒にかんがえませんか？っていう提案が思う」

S「真反対の意見になるけど、ある程度悪いことがあることを許容して、それでも使い続けて、成長していく中で、こういう事があるからなくす方法を考えましたっていう生産者側に回れば良いと思う」

F『ということで、意見をいっぱい出してもらいました。今出たこの意見をみんなでもう少しまとめてスライドを作り始めてください』

<終>

F=ファシリテータ・J=事業者・W=書記・T=教員・S=生徒